

サイエンスアゴラの企画・運営を行っています。

サ イエンスアゴラは、サイエンスを通してみんながつながる「ひろば」です。サイエンスについての面白いこと、気になること、さらにこれからのことを一緒に楽しみ、語り合い、共有する日本最大級の科学コミュニケーションのマルチイベントです。私は主担当として、「サイエンスアゴラ2011」の企画立案から当日の運営までのすべてに関わっています。

「サイエンスアゴラ2011」の準備は「2010」が終了した直後、昨年11月から始まりました。来場者数やアンケート結果などのデータを取りまとめ、私たち担当者に役員も加わった反省会も開いて、まずは課題の洗い出し、そして年明けにはコンセプトやテーマを議論しました。ところが、例年ならば準備に取りかかる3月、東日本大震災が発生しました。一度は決まりかけた方向性を再度練り直し、改めて決定したテーマが「新たな科学のタネをまこうー震災からの再生をめざして」です。

「サイエンスアゴラ」は主に、サイエンスについて伝えたい人たちが出展者となって行う企画（公募企画）と、JSTや関係機関が自ら行う企画の2種類で構成されています。「サイエンスアゴラ2011」の企画公募は5月から始めましたが、予想をはるかに上回る数の応募がありました。希望する方すべてに出展してほしくても、スペースや予算には限



科学ネットワーク部 企画担当
調査員

梅原千慶 (32) うめはら・せんけい

●業務の内容

サイエンスアゴラの企画運営を担当。米国科学振興協会 (AAAS) 年次大会でのシンポジウム開催など、部署内の国際案件も扱う。「サイエンスアゴラ」で得られた知見を学会で発表するなど、科学コミュニケーション促進のためのさまざまな仕掛けを作っている。

●Background

東京大学教養学部基礎科学科卒業、同大学院総合文化研究科広域科学専攻修了。博士(学術)。米スタンフォード大学などの博士研究員を経てJSTへ入社。現在3年目。専門は生物物理学、ナノバイオテクノロジー。

りがあるのが実情です。外部有識者も交えた選考・調整を経て、「サイエンスアゴラ2011」では過去最多の190以上の企画を実施することになりました。

出展企画が決まった後は、主に初めて出展する方たちを対象とした説明会を開きます。ここでは例年、さまざまな質問や要望が出されます。ブースのしつらえや実験上の制限などの質問以外にも、「ロケットは飛ばせたい」「大きなグライダーを持ち込みたい」「コスプレは…」など、予想だになかった視点からの質問や要望があって、驚かされることも少なくありません。ただ、意外な実験結果がノーベル賞級の研究のタネになるように、こうした“想定外”の要望や意見こそが「サイエンスアゴラ」のクオリティを高めてくれるものだ、私は考えています。説明会は単に注意事項を伝えるだけの場ではなく、出展者と運営側の双方向コミュニケーションと「創発」の機会でもあるのです。

「サイエンスアゴラ」は、全国の科学コミュニケーターが集う場として2006年にスタートしました。年を追うごとに規模も大きくなり、今では「科学と社会をつなぐ場」へと変化を遂げています。研究者や親子連れ、学生や先生はもちろん、より多くの方に参加いただくことで、世界に発信するオールジャパンのイベントにしていきたいと考えています。科学と文化の秋、お台場へぜひお越しください。



左)「サイエンスアゴラ2010」でのワークショップ。今年も子どもから大人まで参加できる企画がそろそろ。中)「サイエンスアゴラ2011」開幕シンポジウムは11月18日(金)、お台場を飛び出し国連大学(表参道駅徒歩5分)で開催!右)出展者説明会の様子。

TEXT:Office彩蔵